

2015年
12月
第189号

地域友好と新聞販売の
明日を拓くネットワーク



淀川メールサービス・アソシエーション

12月14日(月)は休刊日

淀川散歩

毎月25日、淀川区全域で3万部配布/発行:COMプランニング社 〒532-0002大阪市淀川区東三国6-23-13/E-mail:com9@nifty.com

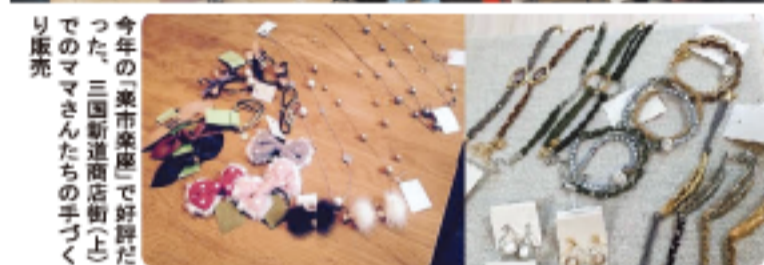
地域と商店街の活性をめざそう

「第1回三国マルシェ」を開催

阪急三国駅近くの三国新道商店街(通称サンティフルみくに)振興組合(理事長 小林元さん)が、同商店街の一角にあるフリースペース「COMゆうゆう」を中心拠点にして12月6日(日)11時~16時、「第1回みくにマルシェ(市場)」(同商店街主催、淀川散歩共催)を開く。地域と一体になれるコミュニティづくりの促進と、商店街の活性化を図ることを目的に実施するもの。当日は、日頃フリースペースを利用する趣味のグループや手づくりの焼き菓子、小物・雑貨などを取り扱うママさんグループなど約20店が集結して展示即売する。また障がい者就労支援事業所の卓上カレンダーやポストカード、人気占い師のコーナー、クレープ菓子の販売や東北支援の物産なども販売する。

三国新道商店街振興組合 手づくり品など販売の場を提供

同商店街の活性と、地域の人の憩いの場として「COMゆうゆう」は、昨年6月にオープンした。当初は、国の地域商店街活性化事業の助成金を適用して、一定の期間、施設を開放して講座やセミナーなどを開いてきた。事業の助成金が途絶えた後は、同商店街が資金を費やしてフリースペース「COMゆうゆう」の持ち主で同商店街の組合員・大塚民生さん(同商店街理事)が、運営に協力しながら「憩いの場」を維持してきた。また、まちづくりのアドバイザーとして大垣光平さんも加わり、「地域と商店街の活性」の場を広げてきた。「三国マルシェをとおして地域の人の手に手づくり品を販売できる場を、今後も定期的に提供していく予定です」と話す。三国マルシェは、今後2~3カ月のペースで開く予定。フリースペースには限りがあるので、出店(出店料500円必要)を希望する人は早めに連絡と登録を。詳細は大塚さん(携帯090・5065・0706)まで。



当日はフリースペース施設周辺の休日店舗や空き店舗前を利用してブースを設ける。参加するママさんグループでは、手づくりのヘアアクセサリ、ブリザードフラワー、毛糸を使用したマフラー、造花やポプリ、くるみボタン、アクリルキーホルダー、絵本フリマ、タルトやクッキー・ケーキ類などの焼き菓子などを並べる。他に手染め糸や羊毛を使った雑貨類、子どもの写真や思い出の記事などをまとめるスクラップブックングのワークショップ(有料)なども開く。フリースペース前では、骨盤調整(有料)や骨盤体操を披露するコーナーやマルシェ全体を盛り上げる歌・演奏のコーナーもあり、若手のグループがクリスマスソングなどを披露する予定。



木川西1丁目の障がい者就労支援事業所「BeHappy」に通う松野恵子さんが、目の不自由なハンディを乗り越えながら、絵の趣味を活かして創作した「パンダキャラ」で来年の卓上カレンダー(13枚印刷仕上げ)を完成させた。愛嬌あるパンダが四季折々の行事や風景と共に登場。子どもから大人までが楽しめる。12月6日に三国新道商店街で開かれる「三国マルシェ」でも販売(1セット800円)される。

街の小さな本屋さんが消えている。かつて家の近くに、最低一つはあった地域密着型の本屋さん、時代の流れもあってかほとんど閉店している。最近では仕事の合間に通っていた府立東淀川高校の近くにあった書店も20数年の幕を閉じた。▼いま新刊をはじめ求めている書籍などはネットで調べて購入し、お金を振り込んだ後に郵送されてくるのを受け取るのが主流に。その一方では街の中心部のレジャービルや駅ナカに進出する大型書店の台頭で、街の小さな本屋さんは、日々隅々に追いやられていく。当然販売として成り立たなくなる。この10年間で、全国でも3000店以上も消えているという▼求める本がなくても、何かの本に出会いたくて、小さな本屋さんに行き立ち寄る楽しみがある。本や書籍の並べ方、お店独自の主観で企画ものを紙に貼り出して、新しい本にめぐり合う喜びもある▼以前は小さな書店に、書籍に詳しい店員さんがいたものだ。今は調べる様子もなく「ありません」。その先はないんかい、と突っ込みたくなる時も。大小に関わらず、書店がコンビニ化していくのは本好きにとっては寂しい。本屋さんガンパッテ(S)